

令和7年度学校自己評価システムシート (県立浦和東高等学校)

目指す学校像	確かな人間力と教養を育み、生徒一人ひとりが自己の探究と実現ができる学校
--------	-------------------------------------

※学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 学力の向上をめざし、授業改善と主体的な学習習慣の確立を進める。 2 自律心と規範意識を高める生徒指導と学習及び部活動の環境整備を進める。 3 自己探究により進路意識を高め、進路希望の実現率を高める指導を進める。 4 保護者・地域連携と情報発信を充実させ、開かれた学校づくりを推進する。 5 ICT活用指導力の向上とICT環境の整備、学校教育活動のデジタル化を進める。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	
学校関係者	7名
生徒	5名
事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年度評価(1月21日現在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員がICT機器やアプリを活用し、生徒の興味関心を引き出す授業を実践に努めることに加え、生徒自身が授業以外でも主体的に学習に取り組む習慣を育む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を上手く活用した授業が展開されている ・主体的・対話的な学習を通じて、生徒の興味・関心が引き出されている ・生徒の学習習慣が確立している 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用した授業及びオンライン授業についての授業見学や研修、意見交換を実施する。 ・年次研修の研究授業(知識構成型ジグソー法)、授業公開期間の設定など、多くの教員による積極的な授業研究を実施する。 ・家庭学習や自主学習の意識向上を図るため、各教科で適切な課題を検討するとともに、進路指導部とも連携しながら、部活動の前後にける学習室の積極的な活用を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器や関連アプリを活用した授業を行うことができたか。 ・主体的・対話的な展開の授業等を取り入れられた結果、授業評価アンケートの結果から授業改善の成果が見られたか。 ・授業以外の学習の時間(家庭学習・学習室利用)が増えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業や校務で昨年度よりICT機器を積極的に活用できた」の教員の割合が約94%。MetaMojiをはじめ、さまざまなツールを活用して主体的・対話的な授業を展開した。また、「授業公開や授業見学を実施し、指導方法・内容の改善に努めている」の割合が約90%。 ・「先生が興味・関心・意欲を引き出す授業をしている」と回答した生徒の割合が約86%。 ・授業以外の学習の習慣化は例年と変わらず低い水準(1時間以上の学習が習慣化している生徒は約17%)であった。学習室利用者は約46%。 	B
2	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故、バスの乗車マナー、バス通学者増加に伴う乗車困難などの問題が生じている。 ・自転車のヘルメット着用が努力義務化となったが、自転車通学における着用者が少ない。 ・TPOを意識した言動を身に着けるため、自律心と規範意識を高める指導を進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通ルールやバス乗車マナーがしっかり浸透している。 ・ヘルメットの重要性を理解し、通学における着用者が増えている。 ・安心、安全な学校づくりに努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面での交通安全指導・講話を実施する。 ・定期的な立哨指導を実施する(下校含む) ・バス乗車指導を実施する。 ・バス会社や浦和学院高校、大宮開成高校と調整を図る。 ・ヘルメット着用を校則として導入する。 ・日常の様々な場面において教職員からの積極的な投げかけを増やす。生徒が正しい判断のもと、TPOを意識した言動や行動について考え、行動する機会を増やす。 ・生徒会とも連携して、目標達成に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故の件数や乗車マナーに対する外部の批判的な意見が減少したか。 ・ヘルメットを着用する生徒の人数が増加したか。 ・バス通学生徒へのヒアリングで前向きな回答が得られたか。 ・生徒指導部による日常の学校生活での観察や、担任、教科担当、部活動顧問との情報共有を通じ、安全で安心な学校になっているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車やバス乗車マナーについて2か月に1回程度指導依頼の連絡をいただいた(減少)。交通事故は11件で前年と比べて2件減少した。ヘルメット校則導入の成果は1年生には多少みられた。生徒会が定期的に自転車ヘルメット着用を呼び掛けた。 ・教職員が協力して声掛け、対話することによってTPOを意識した行動のとれる生徒が増えてきていると感じる。一方、SNSの使い方については課題が残った。 	B
3	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路先が多岐にわたっており、また入試制度が多様化しているため、情報を収集・管理し、計画的・系統的な進路指導を実践する必要がある。 ・生徒の進路意識を高め、自己分析から主体的に進路活動に取り組むことのできる環境を整える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの進路実現を踏まえ、多面的な進路指導が実施できている。 ・入試制度に係る知識を教員間で共有し、その知識を生徒にも還元した指導が行えている。 ・3年間を通した指導計画をもとに進路指導・ガイダンスを実施し、生徒の進路意識が高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な時期に各模擬試験を行い、その結果を参考に生徒の学習状況の改善を図るだけでなく、面接指導や小論文指導などにも活かした進路指導を実施する。 ・教員対象の学校説明会などで得た進路情報を、教職員間で共有する体制を整備し、生徒への適切な情報提供を充実させる。 ・生徒が進路行事を通じて、必要な情報を自ら収集し、積極的に進路実現に取り組む姿勢を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各模擬試験の結果を進路指導に上手く活かすことができたか。 ・生徒の志望校における教員対象の学校説明会に多く参加し、教員間で共有を図れたか。 ・計画的に目的を持ったガイダンスの企画・運営を行い、進路行事・進路結果の満足度90%以上を達成したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタディサポートや実力診断テストでは、各教科の成績に加点することで昨年度並みのGTZ(学習到達ゾーン)を維持した。 ・教員対象の学校説明会に18校参加し、本校生徒が入学した実績の多い学校から、指定校枠のない学校まで説明を聞き教員間で伝達を行うことで多くの情報を共有することができた。また、説明会に多く参加したことで、生徒向けの入試対策講座を数校に依頼し、開講することもできた。 ・進路結果満足度は96.9%、進路行事への積極的な参加87.1%と昨年度よりわずかが上昇したこともあり、効果的な進路ガイダンスの運営ができたと考えられる。 	A
4	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会の内容をさらに発展・充実させて、中学生の本校への理解を高めていく。 ・学校HPや一斉メールなどのツールを活用し、本校の取り組みに関する情報を積極的に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会等をより充実させるために、適切な方法で実施する。 ・学校に寄せられる情報を適切な方法、時期に提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全に配慮した年4回の学校説明会・部活動体験等の開催や、校外で開催される高校説明会等に参加する。 ・学校HPの改善や、進路や奨学金等に関する情報提供や学校行事等のリアルタイム更新による情報発信を適切に行う。 ・地域活動への積極的な参加を実施する。 ・保護者への授業評価アンケートの実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫・改善された学校説明会などを通して本校への理解が深まり、進学意欲が高まったか。 ・本校の志願者数(昨年度421名)が増加したか。 ・積極的な情報提供を行い、保護者による学校評価アンケートの結果から情報が家庭に確実に届いたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計4回の学校説明会を滞りなく実施できた。第2・3回説明会で今年度新たに部活動体験も実施し大変好評であった。 ・志願者数は減少見込である。 ・学校HPで活発に情報発信をした。特に部活動に関しては例年以上に活動報告を行った。保護者アンケートにおいて「HPを見て本校理解に役立っている」の割合が約77%、「学校からの保護者あて文書をよく見ている」の割合が約81%。 	A
5	<ul style="list-style-type: none"> ・授業でのICT活用等、教育活動のデジタル化を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や課題等の配信をデジタル化する。 ・校務にICTを取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業や課題配信等、教育活動の工夫に取り組む。 ・校外で実施されるICT研修会に参加し、校内研修会等を通じ共有する。 ・自動採点システムや生成AIの活用など、校務のデジタル化を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や校務でICTを昨年度よりも「積極的に活用できた」と回答した教員が70%以上。 ・授業におけるICT活用方法に満足している生徒が、昨年度(約35%)より増加したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や校務でICTを昨年度よりも「積極的に活用できた」と回答した教員は93%であった。 ・学校評価アンケートにおいて「よかったと思う授業で評価する要素」としてタブレットの使い方と回答する生徒は18.5%であり、授業での活用方法には課題が残った。 	B

学校関係者評価
実施日令和8年1月30日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・学習時間増加には、授業ごとの課題や「このページを見ると良い」といった具体的な指示があると、勉強意欲が高まる。また、課題がプリント配付だと学校に置き忘れた場合に勉強ができない。タブレット配信が進めば、スマートフォンなどの小さな画面でもMetaMojiで勉強することもできるので、短い時間でも有効活用できるという生徒の意見もある。学校としても昔ながらの勉強方法を見直し、デジタル配信による課題提供システムへの転換を検討することが大切だと思う。 ・校則でヘルメット着用を明文化することは非常に優れており、ヘルメット着用率が11%に上昇したことは、おしやれを重視する生徒が多い中で大きな成果であり、実質的な効果が出ていると評価できる。また、自転車事故の内容や原因を生徒に対して情報還元し、交通安全に関する啓発活動に活かすことで、実践的な安全意識を育成する機会に繋がれるので、ぜひ検討いただきたい。 ・埼玉経済同友会が実施している企業と高校生の交流会は、探究型学習の有効な事例と考える。生徒があらかじめ提示された約30社の企業リストから興味のある数社を選択し、各社30分程度の説明を受ける仕組みになっている。企業担当者から働き方や仕事内容、職業観などの話を聞くことで、生徒は「将来その業界で働きたい」「その業界での働き方」「その業界で働くためにはどの大学に進学すべきか」といった関係を考えさせる契機になる。このシステムは職業観の醸成に極めて有効である。また、インターンシップを通じた同様の探究型カリキュラムなども参考にしてほしい。 ・生徒の活発で礼儀正しい様子、部活動発表、生徒との対話等が大変好評であるため、次年度以降も変更が必要と見做す必要がある。HPによる保護者・地域への情報発信は今後も積極的に行う。その他にも、保護者会、面談、日常の保護者連絡等さまざまな場面で保護者との連携を強め、学校への理解を得るよう努める。 さいたま市の中学校ではiPadへの切り替えが進められており、活用方法やタイピング能力の育成が課題である。プログラミングの授業もあるため、高校に進学する際、生徒がどこまで使えるようになっているかは重要なため、今後も情報を提供いただきたい。